

國定小學讀本歌唱集

檢定濟

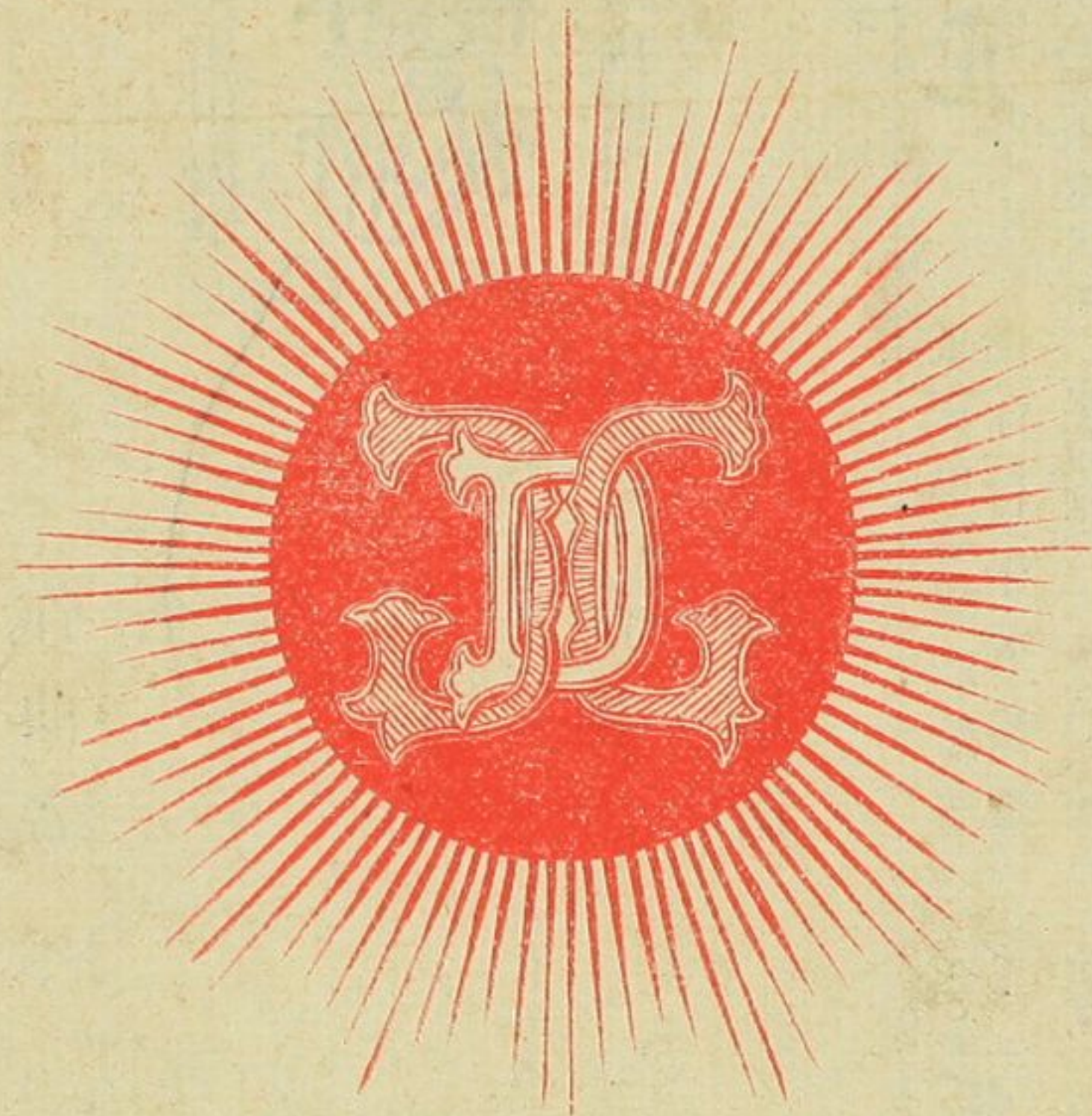
高等卷之貳



東京  
元元堂書房發行







和  
一  
松  
山  
様



明治三十七年八月廿六日  
文部省檢定濟

緒言

一本書ハ文部省著作高等小學讀本中ニアル韻文ニ曲譜ヲ附セ  
ルモノナリ  
一本書ノ曲譜ハ學校教科用及ビ家庭用ニ適應セシメンガタメ  
斯道ニ多年經驗アリ令聞アル東京音樂學校教官内田桑太郎  
全楠美恩三郎全岡野貞一ノ三先生ニ依囑シテ成リシモノナ  
リ  
一本書ノ歌詞歌曲ノ調和ニツキテハ三先生ノ特ニ注意ヲ拂ハ  
レタル所ニシテ兒童ノ品性ヲ陶冶シ美感ヲ養成スルニハ極  
メテ適切ナルモノト信ズ

注意 一音符ニニ文字ノ配當セルハ其音圖ヲ二等分スベキモノトス

定國 小學讀本唱歌集 卷の二 (高等科二學年用)

目次

奈良	二
須磨明石	四
海國男子	六
日光	九
遠洋漁業	一一
水の變態	一四
白虎隊	一七



奈 良

変は調八分の六拍子 ♩ = 88.

1 2 3 2 | 1 1 5. | 1 2 3 2 1 | 2. 2 0 |  
 二 へ ナ ノ ゴ ト ク ニ サ カ エ タ ル  
 二 て ら に ま つ れ る だ い ぶ つ の

3 4 5 3 | 6 6 5. | 3 3 2 3 | 1. 1 0 |  
 ナ ラ ノ ミ ヤ コ ノ オ モ カ ゲ ナ  
 ナ の こ ん り ユ コ は し ョ ム ム て い

2 2 5 4 | 5 6 5. | 6 6 1 7 6 | 5. 3 0 |  
 チ ト セ ノ ノ チ ニ ナ ホ ノ コ ス  
 こ - じ - さ ん じゃ こ - す ん あ る

3. 6 5 | 6 7 1 7 | 6 6 5 4 | 5. 5 0 |  
 メ イ ショ キュ セ キ カ ズ オ ホ キ  
 ズ - な す へ た る ぶ つ て ん の

3 2 1 2 | 3 4 5 6 | 5 3 2 3 | 1. 1 0 ||  
 ナ カ ニ モ ナ ダ カ キ ト - ダ イ シ  
 い - ら か へ も の に そ び え た り

◎ 奈 良。 (讀本卷三)

(一) 花のごとくに榮えたる

奈良の都の面影を、

千歳の後に、なほ、残す

名所、舊蹟數多き 中にも、名高き東大寺。

(二) 寺にまつれる大佛の、

その建立は聖武帝。

五丈三尺五寸ある

像をすゑたる佛殿の

いらか、雲井に、そびえたり。



須磨明石

に調四分の四拍子 ♩ = 132.

5. 5 6 6 | 5. 5 3 3 | 2. 2 1 2 | 3- 0 |

マ ツ ハ ミ ド リ ニ ス ナ シ ロ ク  
ほ かけ て い ー づ る ふ ね お ほ く  
ウ ー ミ ノ ア ナ タ ニ イ ト テ カ ク

5. 5 6 6 | 1. 2 1 6 | 5. 3 2 3 | 1- 0 |

フ ケ イ ス グ ル ル ス マ ノ ウ ラ  
あ さ う み に ぎ は ふ あ か し が た  
ミ ー ユ ル リ ク チ ハ ア ハ チ シ マ

2. 2 2 2 | 3. 2 1 3 | 5. 6 5 3 | 5- 0 |

イ ソ ベ ニ イ ー デ テ カ ヒ ヒ ロ フ  
あ か し の し ー ろ も ひ と ま ろ の  
カ ー ヨ フ キ セ ン ノ フ エ ノ ネ モ

5. 6 5 6 | 1. 2 1 6 | 5. 3 2 3 | 1- 0 ||

コ ド モ モ ナ ガ メ ノ ヒ ト ツ ナ リ  
や し ろ も こ の ま に み ゆ る な り  
ス ズ シ ク ナ ー ミ ニ ヒ ビ ク ナ リ

(一) 松は緑に、砂白く、風景すぐる須磨の浦。  
磯邊に出でて、貝拾ふ  
帆かけて、出づる舟多く、めの一つなり。  
明石の朝海に、ぎはふ明石湯。  
海も、木の間に見ゆるなり。  
通ふ汽船の、涼しく、波に、ひびくなり。  
見ゆる陸地は、淡路島。

◎須磨明石。

(讀本卷三)



◎海國男子。

(讀本卷三)

(一) わが住む日本帝國の

四面は海に圍まれて、

いづくに行くにも、棹楫を

借らで、進まん道あらず。

(二) この海國に、生れたる

日本男子は、國のため、

波路をおのが家として、

住まん覺悟を定むべし。

(三) 山なす、沖の大波も、

恐れず、進む勇氣こそ、

幼き時の練習に

よりて、えらるる身の寶。

(四) 泳の業も怠るな。

ぼーとの遊もこころみよ。

日本は海の國なるぞ。

海はわれらの家なるぞ。



海國男子

へ調四分の二拍子 ♩ = 112.

1. 2 3 2 | 1 5 1 3 | 5. 5 6. 5 | 5 0 |  
 一ソニヤお 二ガのマイ 三スカナギ 二ムイスの 一ニニオワ 一ッ一キ 一ボクキギ 一ンにノも 一テウオオ 二イマホコ 一コレナタ 二クたまる 一ノるモナ

3. 3 4 3 | 2 6 6 | 1. 7 1. 3 | 2 0 |  
 一シにオボ 二メッソ一 一ンぼレと 一ハんズの 二だんスあそ 二ミシスび 一ニはムも 一カクユコ 一マのキろ 二レたコみ 一テめソよ

5. 5 3 3 | 4 3 2 6 | 5. 5 1. 2 | 3 0 |  
 一イナオに 二ツみサほ 一クぢナん 一ニなキは 一ユオトウ 一クニのキみ 一モがノの 一サイレク 一チヘンに 一カとシユな 二サレる 一チてニぞ

2 5 5 | 6 5 1 4 | 3. 3 2. 1 | 1 0 ||  
 一カサヨウ 一ウまりみ 一デンテは 一スカエワ 一スクラレ 一マゴルら 一ンをルの 一ミささい 二チだノへ 一アむタな 二ラベかる 一ズレラぞ

◎ 日 光

(讀本卷四)

(一) 紀州の那智ともろともに、

その名知られし日光の

華嚴瀧は、その高さ

三十餘丈ありといふ。

(二) 落ち來る水は白布を、

空にかけたるこゝちして、

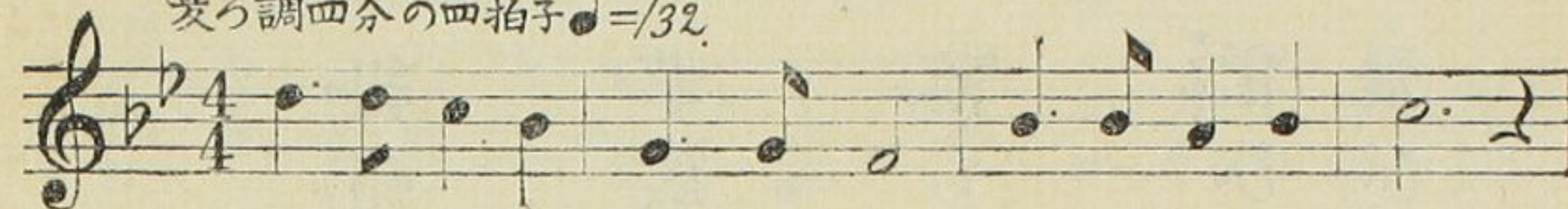
雷ひびき、雪くだけ、

飛び散る泡は谷にみつ。



日 光

変ろ調四分の四拍子 ♩ = 32



3. 3 2 1 | 6. 6 5- | 1. 1 7 1 | 2- 0 |

一 キ シ ュ ノ ナ チ ト モ ロ ト モ ニ  
二 お ち く る み づ は し ろ ぬ の を



3- 2 1 | 6. 6 5 5 | 1. 1 7 2 | 1- 0 |

ソ ノ ナ シ ラ レ シ ニ ッ コ ノ  
そ ら に か け た る こ ち し て



5. 5 5 5 | 3. 4 5- | 1. 1 7 1 | 2- 0 |

ケ ゴ ン ノ タ キ ャ ソ ノ タ カ サ  
か み な り ひ び き ゆ き く た け



3. 3 2 1 | 6. 6 5- | 1. 1 7 2 | 1- 0 ||

サ ン ジ ュ ャ ヨ ッ ア リ ト イ フ  
と び ち る あ わ は た に に み つ

◎ 遠洋漁業。

(讀本卷四)

(一) 日本男子と生れては、

富國の道をはかるべし。

海に、無盡の富ありて、

波路に行かれぬ所なし。

(二) 怒れる波は高くとも、

吹きまく風はあらくとも、

北に、南に漕ぎ出でて、

すなどるわざも國のため。



遠洋漁業

調四分の二拍子 ♩ = 100.

5. 5. 5. 5. | 1. 1. 1. 3. | 2. 1. 2. 3. | 5. 0. |  
 ニニ ア ャ フ | ー シ ー ナ は | ー マ カ サ | ハ も バ リ  
 ー ー ー ー | ー ー ー ー | ー ー ー ー | ー ー ー ー |

6. 6. 6. 5. | 3. 2. 1. 1. | 6. 5. 3. 2. | 1. 0. |  
 フ コ ク ノ | ャ ェ ー ー | ハ カ ラ テ | シ も ヲ ジ  
 ー ー ー ー | ー ー ー ー | ー ー ー ー | ー ー ー ー |

3. 3. 2. 1. | 6. 6. 5. 5. | 3. 2. 3. #4. | 5. 0. |  
 ー ー ー ー | ャ ェ ナ ノ | ト ミ ア リ | テ テ テ テ  
 ー ー ー ー | ー ー ー ー | ー ー ー ー | ー ー ー ー |

5. 5. 6. 7. | 1. 1. 2. 3. | 4. 2. 5. 5. | 1. 0. |  
 ナ ミ ナ る | ー カ ー ー | ト コ ノ ナ | シ め ナ  
 ー ー ー ー | ー ー ー ー | ー ー ー ー | ー ー ー ー |

(三)

危き道をおかさずば、

勝れし功は立てられじ。

島かげ見えぬ所まで、

漕げや、家なるわが舟を。

(四)

種々の寶は海にあり。

取れど、拾へどつきもせじ。

思へや、獲物うち積みて、

歸る波路の愉快さを。



◎ 水の變態。

(讀本卷四)

- (一) を山田の霧の中道ふみ分けて、  
人來と見しはかゝしなりけり。  
霧。
- (二) あけわたる、たかねの雲にたなびかれ、  
光消えゆく、弓はりの月。  
雲。
- (三) けふの雨に、はぎも、をばなもうなだれて、  
うれへがほなる秋の夕暮。  
雨。雪。

- (四) ふくる夜ののきのしづくのたえゆくは、  
雨もや雪に降りかはるらん。  
霰。
- (五) むら雲のたえまに、星は見えながら、  
夜行く袖に散る霰かな。  
露。
- (六) 白玉の、秋の木の葉にやどれりと、  
見ゆるは露のはかるなりけり。  
霜。
- (七) 朝日さすかたへは消えて、のき高き  
家かげに残る霜の寒けさ。



水の變態

変は調二分の二拍子 76.

5 5 1 1 | 2-. 0 | 1 1 1 1 | 6 6 4 4 |

ナ あ ケ フ ふ ム シ ア  
ヤ ゲ ノ く ラ サ  
マ ワ ア る ク タ ヒ  
ダ タ メ よ モ マ サ  
ノ る ニ の ノ の ス  
キ タ ハ の タ あ カ  
一 カ ー エ ー タ  
リ レ ギ キ マ キ ヘ  
ノ の モ の ニ の ハ  
ナ ク チ シ ホ コ キ  
カ ー バ ブ ー の ー  
ミ も ナ く シ バ エ  
チ に モ の ハ に テ

5 6 5 4 | 2-. 0 | 5 5 5 5 | 6 1 2-

フ タ ウ タ ミ ヤ ノ  
ミ ナ ナ エ エ ド キ  
ワ ビ ダ ヲ ナ レ タ  
ケ カ レ ク ガ リ カ  
テ レ テ は ウ と キ  
ヒ ビ ウ あ ヲ ミ ヤ  
ト ー め ル ヲ カ  
ク カ レ も ユ ル ゲ  
ト リ ヘ ヤ ク は ニ  
ミ キ ガ ヲ ソ ツ ノ  
シ エ ホ キ テ ヲ コ  
ハ ク ル に ニ の ル

3- 6 6 | 5- 3- | 2-. 1 | 1- 0- ||

カ ヲ ア フ チ は シ  
カ ミ キ リ ル カ モ  
シ は ノ カ ア ル ヲ  
ナ リ ユ は ラ ナ サ  
リ の フ ル レ リ ム  
ケ ツ ク ラ カ ケ ケ  
ー ー ー ー ー  
リ キ レ ん ナ リ サ

◎ 白虎隊

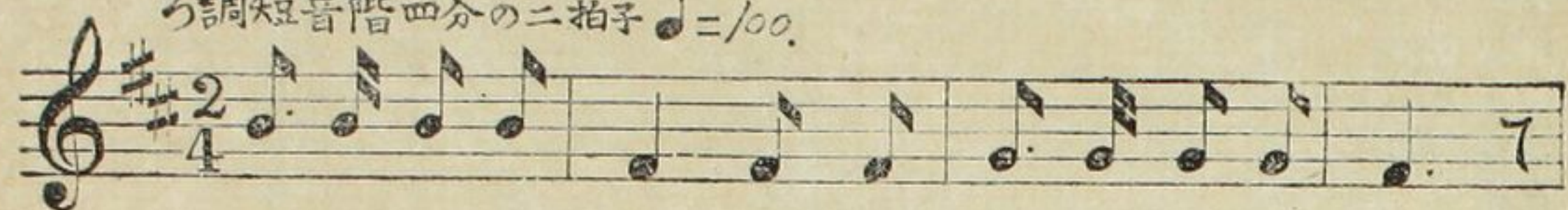
(讀本卷四)

(一) 敵のごとくみだれくる、敵の彈丸ひきりけて、  
命を塵と戦ひし、三十七の勇少年。  
これぞ會津の落城に、その名聞えし白虎隊。  
味方少く、敵多く、日は暮れはて、雨暗し。  
はやる勇氣はたわまねど、疲れし身をばいかにせん。  
倒る、屍流る、血。たのむ矢玉もつきはてぬ。  
残るは、わづかに十六士、「一たび、あとに立ち歸り、  
主君の最後にあはばや」と、飯盛山によぢのぼり、  
見れば、早くも、城落ちて、焔は天をこがしたり。  
臣子の務はこれまでぞ。  
枕ならべて、こゝろよく、刃に伏し、物語、  
傳へて、今に、美談とす。散りたる花のかんばしと。」

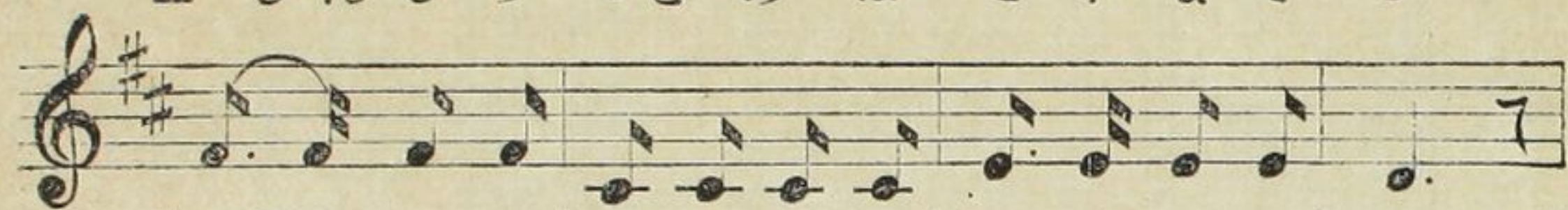


白虎隊

ろ調短音階四分の二拍子 ♩=100



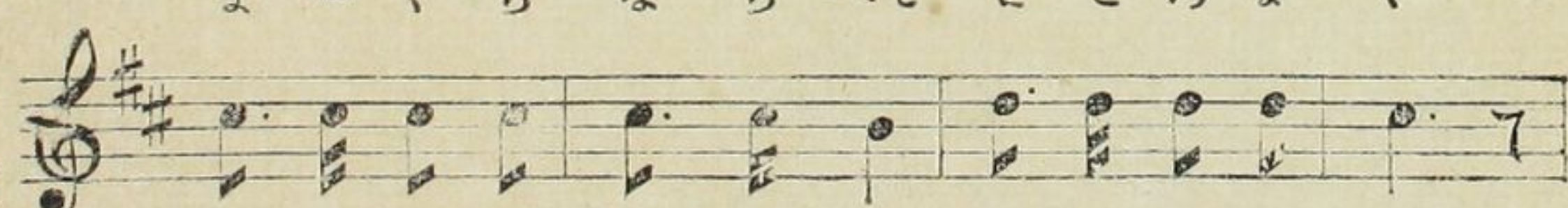
6. 6 6 6 | 3 3 3 | 4. 4 4 4 | 3. 0 |  
 ニ ア ニ ノ ゴ ト ク ニ タ ル  
 ア ミ ラ ノ ア ヲ ク ミ タ ハ  
 ノ シ コ ン ル ハ ツ と カ メ ニ は ジ ユ コ レ ロ マ デ シ ゾ



3. 3 3 3 | 7. 7 7 7 | 2. 2 2 2 | 1. 0 |  
 ニ テ ニ キ ノ ニ ヒ ニ ケ テ  
 ヒ ヒ ト デ タイ サ アギ ー ト ヨ ニ ク ア タ シ ム キ メ テ ス カ ベ シ リ ト



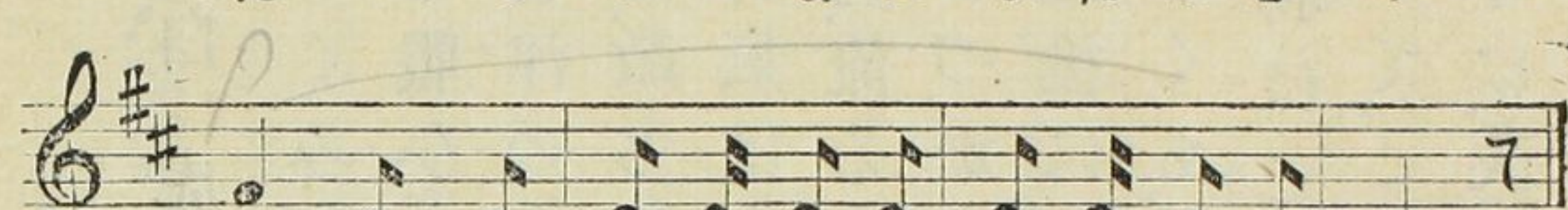
6 7 1 2 | 3. 3 3 | 4. 3 4 6 | 7. 0 |  
 ニ ノ ニ チ ニ チ リ ト タ タ カ ヒ シ  
 ハ シ ク ー ヤ ノ ら ナ イ ら ゴ ニ テ ア コ ハ バ ヲ ヤ ト ク



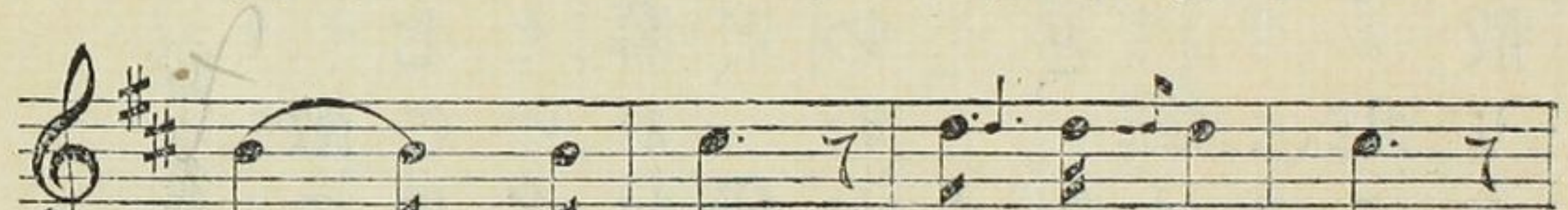
7. 7 7 7 | 7. 7 0 | 1. 1 1 1 | 7. 0 |  
 ニ シ ニ シ ニ シ ニ シ  
 サ ツ カ ヒ ヲ ジ ャ シ リ ニ シ マ シ ノ バ ニ シ ヨ モ カ デ ノ セ ボ タ ネ ン リ リ



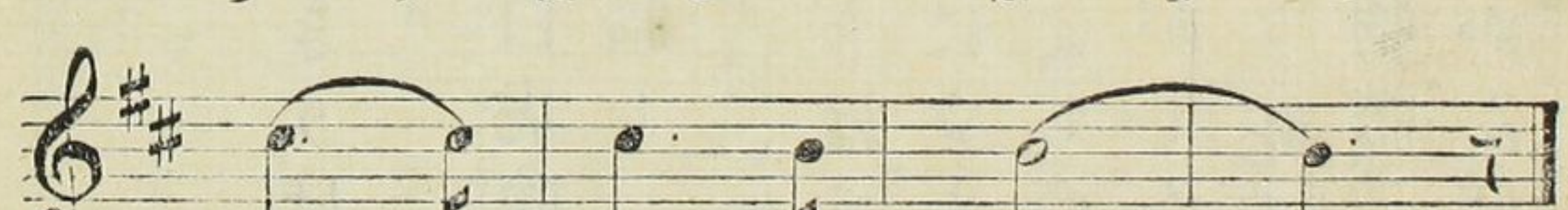
7 3 3 | 4. 4 4 4 | 4. 4 2 2 | 3. 0 |  
 コ ニ ゾ ニ ア ヒ ヲ ノ ラ ニ ク ジ ョ ニ  
 タ ミ ル レ ヘ バ テ カ ハイ ヤー ク マ ニ シ ビ ガ ロ ダ ェ ン チ と ス



3 7 7 | 1. 1 1 1 | 1. 1 7 7 | 6. 0 |  
 ヲ ノ ナ キ コ エ シ ビ ヲ キ ガ ー コ シ タ イ  
 ホ チ ノ ヲ ム ハ テ ハ ー ナ の ヲ カ ン バ シ ヲ リ サ



6 6 6 | 7. 0 | 1. 1 1 | 7. 0 |  
 ソ ノ ナ キ コ エ シ  
 タ ノ ホ タ ム ハ テ ハ ー ナ の



7. 7 7 | 7. 6 | 6 6 | 6. 0 |  
 ビ ヲ ツ キ コ ハ タ イ  
 ツ カ ガ ン シ バ タ テ シ ヲ リ サ



長尾松三郎先生著

學生必携  
年表應用

### 新案日本歴史筆録

定價 表装 金貳拾八錢  
普通表装 金貳拾錢  
郵税 金六錢

世の中學校高等女學校 高學年の日本歴史教授の任に當り 教師諸君 學習の期 生徒諸君 本筆録は 諸君が教授の便益を計り 學習の勞苦を減じ 而も 眞正に教授學習の目的を達せんがため 著者多年の實驗考案によりて 編述したるものにて 既に多數實地家の贊同を博せるものなり 尙左に目的内容用法を略言せん

- 一、目的。本筆録は從來歴史の教授學習上至難とせる所の年時と史實との關係を容易に且明晰に聯絡密結せしめ以て興味ある永久的記憶を作るにあり
  - 二、内容。本筆録は百年を二頁の一面として上欄に簡明なる年表を示し下欄に學生自ら教授を受けつゝ、記入すべき筆録欄を備へ更に新案年代記憶歌、主要人物系譜等を各面に都合よく附記せるものなり
  - 三、用法。學生諸君はこれを教室筆記帳として復習備忘録として又年表として使用し得べし
- 本筆録を使用せば始めて歴史教授は容易に眞正なる目的を達し得べく歴史學習に興味ある永久的知識の收得を期し得べきなり

學生必携 年表應用  
學生必携 年表應用

### 新案東洋歴史筆録

### 新案西洋歴史筆録

定價 金拾八錢  
郵税 金四錢

後閑菊野先生校閱  
小田切浦乃先生共著  
法貴する子先生

(本書は文部省告示第十一號により檢定を要せざるものなり)

## 作法書

全壹冊

定價 金參拾五錢  
郵税 金六錢

本書は高等女學校女子師範學校及これと同程度の女學校に於ける作法教科用書に充てんがため小田切、法貴兩先生が各流派の粹を抜きて時世に適合せしめ數年間實地生徒に教授せられたる事項を更に後閑先生



の丁寧懇切なる校閲を経たるものなれば生徒用教科書参考書としては勿論、また教師用参考書として適切なる良書なり

東京音楽學校教官 内田象太郎、楠美恩三郎  
岡野貞一、先生作曲

### 國定小學讀本唱歌集

尋常科用三冊 定價 各金五錢  
高等科用四冊 郵稅 四冊迄金貳錢

尋常科明治三十七年七月二十三日  
高等科明治三十七年八月二十六日 文部省檢定濟  
●本書は文部省の御許可を得て發行したるものなり  
●本書に類似のもの他に一二發行ありしも曲譜の良否につきては世間既に定論あり悉く本書房發行のもの  
を採用に一定せり之れ本書の特に光榮とする所なり

廣島高等師範學校助教授 横地捨次郎先生著

### 國定小學讀本 新遊戯法

定價 金五十錢  
郵稅 金八錢

國定小學讀本採用の學校にして本書を使用せざる學校の教育は佛を作りて魂を入れざるの誹を免れざるべし

前高等師範學校教諭 小山左文二先生選

### 高等女子補習讀本

全貳冊

前篇 定價 各金貳拾五錢  
後篇 郵稅 各金六錢

本書は高等小學校女子補習科女子技藝學校并に裁縫女學校等に於ける講讀用教科書に充てんがだめ小山先生が慘憺たる苦心を以て編纂せられたるものにして其文體は普通散文口語文韻文書翰文等現時世に行はるる總べての種類に涉り其内容は女徳の修養文學的趣味の育成實業的知識の供給、家政の整理國憲國法に關する思想の涵養等、一箇の文明的婦人としては一家の賢明なる主婦として缺くべからざる百般の事項に

渉り、されば本書は前記諸學校の教科用書として唯一無二の良書なりと信す

●國の姿 ●かまどの煙 ●女子の務 ●河瀬はる子 ●衣服の話 ●京染 ●しみのぬき方を問はれし返事 ●都  
●春 ●髪 ●飾身 ●の飾 ●石鹼と白粉 ●俚諺 ●バクテリア ●看病 ●柔よく剛に勝つ ●小式部内侍 ●歌七  
●首 ●女流 ●俳句 ●わが國の海産 ●濱邊の夕暮 ●住居 ●室内の裝飾 ●拭掃除の心得 ●行儀作法 ●茶の湯  
●と ●生花 ●製茶 ●商人の徳義 ●營業主人と營業雇人と ●貨幣と紙幣 ●物價 ●儉約の話 ●山内一豊の妻  
●の返事 ●俚諺 ●商人の徳義 ●營業主人と營業雇人と ●貨幣と紙幣 ●物價 ●儉約の話 ●山内一豊の妻  
●瓜 ●生岩 ●女 ●慈善 ●格言 ●金剛石の御歌 ●格言 ●養蠶 ●特別植物 ●土壤種類 ●肥料 ●家禽 ●女子の  
●皇 ●后 ●陛下 ●の御盛徳 ●の一端 ●金剛石の御歌 ●格言 ●養蠶 ●特別植物 ●土壤種類 ●肥料 ●家禽 ●女子の  
●四 ●行 ●息 ●女 ●に ●教訓 ●する ●文 ●税 ●所 ●敦 ●子 ●の ●君 ●を ●弔 ●ふ ●暮 ●秋 ●小 ●兒 ●の ●保 ●育 ●孟 ●子 ●の ●母 ●わ ●が ●家 ●庭 ●俚 ●諺 ●わ  
●が ●國 ●の ●鑛 ●産 ●石 ●油 ●と ●石 ●炭 ●燐 ●寸 ●わ ●が ●國 ●の ●貿 ●易 ●一 ●家 ●の ●經 ●濟 ●西 ●洋 ●主 ●婦 ●の ●役 ●目 ●銀 ●行 ●保 ●險 ●俳 ●句 ●わ  
●六 ●歌 ●仙 ●の ●歌 ●俚 ●諺 ●ナ ●イ ●チ ●ン ●ゲ ●ル ●女 ●史 ●赤 ●十 ●字 ●の ●う ●た ●わ ●が ●皇 ●室 ●大 ●日 ●本 ●帝 ●國 ●憲 ●法 ●中 ●央 ●政 ●府 ●自  
●治 ●制 ●度 ●爵 ●位 ●勳 ●章 ●褒 ●章 ●法 ●律 ●と ●命 ●令 ●納 ●税 ●と ●兵 ●役 ●徵 ●兵 ●に ●出 ●で ●た ●る ●人 ●の ●親 ●に ●つ ●か ●は ●す ●文 ●同 ●じ ●く ●返 ●事  
●戰 ●捷 ●國 ●の ●女 ●子 ●勅 ●語 ●勅 ●語 ●捧 ●讀 ●の ●歌

編 後  
編 前

長野縣松本高等女學校校長 井田竹治先生著

### 家庭日用理科あるべ

全壹冊

定價 金貳拾五錢  
郵稅 金六錢

本書は現時國民の缺點なりと指摘せらるる、理科的知識の缺乏を補はんがため井田先生が該博なる識見を以て著はされたるものにして日常の事物に當つて生ずる疑惑を氷解せんとせらるる、少年子女及び家政整理の重任に當らるる、良妻淑女の必らず一讀せざるべからざる良書なり

鹿兒島縣師範學校校長 野島藤太郎先生著

### 鹿兒島藩の風教

全一冊

定價 金貳拾五錢  
郵稅 金四錢

本書は鹿兒島縣師範學校校長野島藤太郎先生が島津藩に於ける風教の梗概を叙せられたるものなり島津家が七百年來西方の雄鎮たりし原因を知らんとせらるる、諸君島津藩より維新の大功臣の輩出せる理由を知らんとせらるる、諸君及び未來の大國民を養成せんとせらるる、教育者諸君并に父兄諸君は必ず本書を一讀せられんことを望む



明治三十七年七月二十三日  
文部省檢定濟

判事 樋山廣業先生著

法律上の婦女

定價 金五拾錢 (郵税不要)

目次 ●法律の概念 ●國家の概念 ●國體と政體 ●權利と義務 ●憲法上の婦女 ●選舉上の婦女 ●遺族扶助上の婦女 ●勳位上の婦女 ●宗敎上の婦女 ●警察上の婦女 ●刑事上の婦女 ●訴訟上の婦女 ●民法上の婦女 ●商法上の婦女 ●能力に付ての婦女 ●親族關係に付ての婦女 ●相續關係に付ての婦女 ●國籍の定まらざる場合の適用

元元堂編輯所編述

中學作文寶鑑

全六冊

春、夏、秋、冬、の卷定 各金貳拾錢  
雜、論說の卷定 各金貳拾五錢  
郵税金 四錢

岩内誠一先生著

國定小學讀本標準 綴り方教本

高等一學年兒童用

定價 金拾五錢  
郵税金 四錢

本書は著者が多年實地教授しつゝ、編述せられたる良書なれば世間にありふれたる杜撰のものとは自ら其撰を異にせり

蜂間信吉先生校訂  
元々堂編輯所編纂

國定教科書 高等小學讀本字解

全八冊

定價 各金五錢  
郵税三冊迄金貳錢

本書は、一方に於ては教授者參考の資となり、他方に於ては自修者の枝折となるべき良書なり

明治三十七年五月十八日印  
明治三十七年五月廿一日發  
明治三十七年七月十一日訂正再版發行  
明治三十八年六月十日訂正十二版發行

國定小學讀本唱歌集與附

定價	尋常の部	上、中、下、各金五錢
價	一、二、三、四、各金五錢	



作曲者 内田 桑太郎  
楠 美恩三郎  
岡 野貞一郎  
元元堂書房  
右代表者 東京市京橋區銀座四丁目十五番地  
印刷者 石川 金太郎  
印刷所 株式會社 秀英舎  
東京市京橋區西紺屋町二十六、七番地

發兌元 元元堂書店  
東京市京橋區銀座四丁目十五番地  
發賣所 ●東京山堂書房 ●東京堂 ●六合館 ●松邑三松堂 ●目黒支店 ●寶文館支店 ●大阪寶文館 ●武野屋 ●福井品川書店 ●長崎書店 ●函館魁文舎 ●旭川書店 ●富山中田書店 ●香川宮前書店 ●岡山細謹舎 ●仙臺 ●熊本 ●崎書店 ●函館魁文舎 ●旭川書店 ●富山中田書店 ●香川宮前書店 ●岡山細謹舎 ●高田高橋書店 ●千葉縣多田屋 ●博多博文社 ●札幌富貴堂 ●弘前今泉書店 ●長岡目黒書店 ●見書店 ●諏訪宮坂書店 ●函館魁文舎 ●旭川書店 ●富山中田書店 ●香川宮前書店 ●岡山細謹舎 ●澤張書店 ●高田高橋書店 ●千葉縣多田屋 ●博多博文社 ●札幌富貴堂 ●弘前今泉書店 ●長岡目黒書店 ●西